

## 「募金・協賛推進特別委員会」 第8回会議 結果概要

### 1 日 時

平成31年3月28日（木） 14:00～15:15

### 2 場 所

滋賀県大津合同庁舎7-B会議室

### 3 出欠状況

委員9名中5名出席（順不同）

出席：金山 昭夫委員長、上村 照代副委員長、戸田 由美委員、  
井上 みゆき委員、片山 彰一委員、

欠席：藤原 麻美委員、谷口 孝男委員、東 登志也委員、中村 道也委員

### 4 議事概要

#### 審議事項

#### （1）第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会募金に係る平成30年度の 取組実績（案）について

事務局から資料1の説明の後、以下のとおり発言・質疑応答があった。

#### <委員>

企業からの大口寄附について、差し支えなければ教えてほしい。

#### <事務局>

今年度の100万円以上の寄附としては、申し出順に、株式会社奥田工務店様から1000万円、株式会社内田組様から200万円、株式会社長栄様から1000万円、株式会社叶匠寿庵様から500万円、ツルタホールディングス株式会社様から1000万円、株式会社大山建設様から300万円、綾羽株式会社様から1000万円、アヤハ不動産株式会社様から150万円、株式会社アヤハディオ様から150万円、株式会社アヤハレークサイドホテル様から100万円の御寄附をいただいた。

#### <委員>

クラウドファンディングについて、いろいろな手法があると思うが、広告塔をたてる形でやっているのか。例えば、広告塔の方が「私はこんなチャレンジをするので支援してください」といったやり方もある。

<事務局 >

昨年は、新しくできたキャラクター「チャップイー」の着ぐるみを作るということ进行全面に出して募っていたが、今年は、国スポ・障スポに向けてといった形で特に広告塔をたてず行っている。

<委員>

もっと開催が近づいてきたら、広告塔をたてた形で行う方が効果的かもしれない。

<事務局>

検討したい。

<委員>

クラウドファンディングの実績で、手数料控除前の金額と書かれているが、どのくらいの手数料がかかっているのか。

<事務局>

寄附金額に対して 15%の手数料と振込手数料が寄附金額（支援額）から引かれた形で振り込まれる仕組みである。手数料等が引かれることにより、実際の寄附額より少なくなってしまうが、手軽に気軽にいつでもどこでも寄附いただける環境を整備するといった点でクラウドファンディングを導入している。

<委員>

アヤハグループ以外からの寄附はどういったアプローチで寄附いただいているのか。

<事務局>

県スポーツ協会の会長でもある綾羽株式会社代表取締役の河本氏より企業様へお声かけいただき、寄附をいただいたものである。昨年度であれば、レイキッズに参加された親御さんが経営されている会社からも寄附をいただいた。

<委員>

返礼グッズは寄附者に直接渡しているのか。また、キャラクターの商業目的による使用料は両大会のために他の寄附と同じように使われるのか。

<事務局>

イベントであれば、募金いただいた方に直接お渡ししている。使用料は1ページに記載の寄附の実績には含まれていないが、他の寄附と併せて両大会のために使わせていた

だく。

## **(2) 第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会募金に係る平成31年度の 取組計画(案)について**

事務局から資料2の説明の後、以下のとおり発言・質疑応答があった。

<委員>

個人の方から寄附いただくには、クレジットの決済環境を整備することが重要である。また、県で行っているふるさと納税の使途の一つとすることで、決済の手段が広がるのではないかと考える。例えば、高島市では、楽天ポイントでの決済やKDDIの使用料と一緒に引き落とすといった決済手段もある。返礼品としては、市外のマラソンランナーを募る形で、1万円寄附いただいた方には、栗マラソンの参加権をお渡しするといったものもある。

<委員長>

様々な決済手段を確保するには、調整が大変か。

<委員>

そこまで難しいものではない。必要があればお教えする。

<事務局>

相談させていただく。

<委員>

大学やボランティアの参画などスポーツに対し当事者感を持たれているところと協力し、展開していくことができないか。

<事務局>

大学との連携については、選手・運営のボランティアの派遣、大学の施設の提供の他に、どのような連携ができるのかを考えていく必要がある。また、プロスポーツとの連携についても強化していきたい。

<委員>

31年度(案)の企業向けリーフレットについて、和暦と西暦が混在している。また、昨年の会議でも出たが、このリーフレットにも具体的な充当事業(使途)を記載してはどうか。

<事務局>

年の表記については、検討する。充当事業については、写真も入れた形で修正させていただく。

<委員>

寄附の手法というのがわかりづらい。コンパクトでA4サイズ1枚でわかるものがよい。また、「滋賀のスポーツを支えているんだ」といったプライドをくすぐるような、意識できるような見せ方ができるとよい。

<委員長>

例えば、応援プロジェクトであれば、ジャンパーの背中に「弊社は滋賀のスポーツを応援しています」と書かれているものを着ていただければ、社員の方も意思統一して、プライドを持って応援いただけるのではないかと。

<事務局>

ご意見を参考にさせていただき、修正する。

<委員>

マスコミで取り上げられるような、誇りを持って取り組めるようなものを計画してもらいたい。

<委員>

県のイベントだけでなく、市町でのイベントも参加しているのか。例えば、大津市であれば大津っ子まつりはたくさんの親子が集まるイベントがあり、今年度はくまモンも来たと聞いている。

<事務局>

今年度の大津っ子まつりでは募金を行うことができなかったのですが、実績には記載していませんが、啓発活動として、ブースを出展しており、来年度は、募金をさせていただく予定である。今後も県内各地で参加されるイベントで募金および啓発を行っていきたい。